

第9期地域科学技術イノベーション推進委員会における 論点整理

「I. 地域の科学技術イノベーション活動の基本的方向性」

平成30年6月11日

第9期地域科学技術イノベーション推進委員会

(第3回)

(1) 科学技術イノベーション振興政策における地域の捉え方(範囲、主体)

- 一義的な「地域」の範囲は定まらない。「地域」は重層的に捉える必要がある。
- 「地域」は規模感、産業、歴史、文化、人、環境等が多種多様。「地域」の多様性を度外視した、一括りの定義にすることは難しいのではないか。
- 地方の場合、構成要素としては自治体と大学がほとんどであり、VCなどの役割は極端に小さい（主要プレイヤーの固定化）。
- 行政の範囲としての「地域」を捉えることが多いが、人と人とのつながりこそに実態があるのであり、こういったネットワークを意識した「地域」の捉え方が必要ではないのか。



- ◆ 「地域」の多様性を前提として、「地域」を定義付けられるか？
- ◆ 「地域」の捉え方として、範囲（エリア、ブロック）を切り口とするか、主体を切り口とするか？

◆ 「地域」の多様性を前提として、「地域」を定義付けられるか？

- 多種多様な状況下におかれている「地域」を一義的に捉えることは難しく、完全なる「地域の定義」というのはほぼ不可能に近い。
- しかしながら一方で、「どの地域でも通用するような汎用性のあるシステムとして地域科学技術イノベーションを捉えること」が重要。
- ここでいう「システム」とは、科学技術イノベーション活動に実際に取り組む多種多様な主体（e.g. 自治体、大学、企業等）が、活動を行うにあたって、相互に作用し合う仕組みや形態を指し、
- このような仕組みや形態は、汎用性と同時に、「地域」の持つ多様性に対応できる柔軟性をも確保されたものとすることが重要ではないか。
(画一的なものとは限らない)

◆「地域」の捉え方として、範囲（エリア、ブロック） or 主体を切り口とするか？

- 地域はこれまで、主に「人口規模」や「エリア」等を切り口として捉えられることが多かった。

e.g. 【地方自治法】

「指定都市」－人口50万以上の市のうちから政令で指定（札幌、さいたま、岡山…etc）

「中核市」－人口20万以上の市の申出に基づき政令で指定（いわき、金沢、高松…etc）

【法律上の定義なし】

「東北地方」、「関東地方」

【地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議 最終報告】

「東京圏」－東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

「地方圏」－上記以外

- また、これまでの施策は、行政区画（e.g.「都道府県」、「市町村」）を意識したものであったが、それらは法令や予算事業を考える上で、明確な「境界」を持ったある特定の「場所」として「地域」を捉えることが有用であったためである。
- しかし、科学技術イノベーション活動とは、活動を実施する「人」や「主体」が中心となり、上記のような「境界」に縛られずに、それを越えた「人的ネットワーク」で展開されるべきものであろう（「点と点の連携」、「広域連携」）。
- したがって、地域科学技術イノベーション活動という観点においては、「境界」の縛り（限定）を解き放ち、人的ネットワークが形成された「場」を引っ張る中心的な主体を切り口として「地域」というものを捉えていくことも必要ではないか。

◆「地域」の捉え方として考えられる主体及びそれらに期待される役割 (科学技術イノベーションの観点)

<p>自治体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のニーズを把握した研究開発の実施。 ・地域の他の主体(主に企業等)への研究シーズの提供。 ・地域の他の主体(大学や企業等)に対する保有する研究機器の共用。 ・研究開発に係る評価基盤の提供。 ・地域の産業振興や経済振興に沿った、地域の大学等のシーズ及び企業ニーズの発掘とそれらのマッチングや企業等誘致。 ・大学等の研究開発のための実験実証フィールドや住民のデータ提供。 ・大学等の研究シーズの社会実装に向けた規制改革等の環境整備(国への働きかけを含む)。
<p>大学・研究機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のニーズを把握した研究開発の実施。 ・地域の他の主体(主に企業等)への研究シーズの提供。 ・地域の他の主体(公設試や企業等)に対する保有する研究機器等の共用。 ・地域の他の主体との共同研究開発の実施。 ・次世代の研究開発を担う人材の育成。 ・各種イベント等を通じた、地域の科学技術イノベーションを起こすための場や機会の提供。
<p>企業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エンドユーザーのニーズの把握及びそれを踏まえた開発の実施。 ・地域の他の主体(公設試、大学等)との共同研究開発の実施と当該研究開発に対する投資。 ・研究シーズ及び製品のブランド化・広報活動。
<p>金融機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の他の主体(公設試、大学・研究機関、企業等)の研究開発に対する資金提供。 ・地域の大学等のシーズ及び企業ニーズの発掘とそれらのマッチング。 ・研究シーズの社会実装、事業化に向けた経営支援。 ・創業間もない企業(ベンチャー企業等含む)に対する資金提供に加え、市場調査、知財調査、人材紹介やメンターリング等のハンズオン支援(≒アクセラレータプログラム)。
<p>住民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の他の主体(公設試、大学・研究機関、企業等)による研究開発のための実験実証フィールドへの参画やデータ提供への理解。 ・様々な社会・行政課題の解決のための科学技術イノベーションの活用に関する要望。

(2) 地域が科学技術イノベーション活動を行う意義・目的

- 「地域科学技術イノベーション」とは、「科学技術」発イノベーション（グローバルに展開可能）と「地域課題」発イノベーション（地域の不便、不満、不安を解決するためのイノベーション）がある。
- 「地域科学技術イノベーション」は何をもって「成功」とみなすのか。目指すべきところを明確にすべきである。
- イノベーションとは、経済的ニーズの中から生まれるもの。企業はこの点に敏感であり、そういったニーズと技術をどう合わせられるか。科学技術イノベーションは、企業の視点をどのように入れていくかを考える必要がある。
- 「地域科学技術イノベーション」の目的とは、国際競争力の強化である。雇用や付加価値額（金額）といった数字に現れるものが重要である。



- ◆ 地域（引っ張る中心的「主体」）が科学技術イノベーションに取り組む**意義・目的**とは何か？

◆ 地域が科学技術イノベーションに取り組む意義・目的とは何か？

- 「科学技術イノベーション」は、
 - ✓ 地域の主体が持つポテンシャルを最大価値に引き上げ、国際競争力を高める（≡地域「**発**」科学技術イノベーション）
 - ✓ 地域の主体が持つ不平、不満、不安、不便といった課題を解決し、生活の質（QOL）を上げる（≡地域「**着**」科学技術イノベーション）
といった結果をもたらす。
- つまり、科学技術イノベーションは、**持続可能な地域経済の発展**や、「**誰一人取り残さない**」**地域社会の実現**に不可欠なツールとして、多様な政策課題の解決に寄与するものである。
- したがって、地域が科学技術イノベーションに取り組む意義・目的は、
（地域の主体となる）**一人ひとりの全ての人**が**他者との関わりの中で**、
「豊かさ（経済的価値）」と**「幸せ（社会的価値）」**を感じながら、
持続的発展と共存を図るため
と考えられるのではないか。

(3) 地方創生の流れにおける地域科学技術イノベーションの位置づけ

- 「地方振興」とは、「当該地域に定着する人を育てていくこと」と「地域の課題を大学が代わって解決する（研究開発も含め）こと」である。
- 地方創生においては、地方に魅力ある雇用の場をどうやって作っていくのが重要である。
- 「地域密着」というと、中小企業に光が当たるが、大企業を巻き込まないとパワフルなものが出てこない。大企業が持つ拠点の多くは、同地域に大学があるので、それらの研究開発機能を強化していくようなたて付けがあると良いと思う。

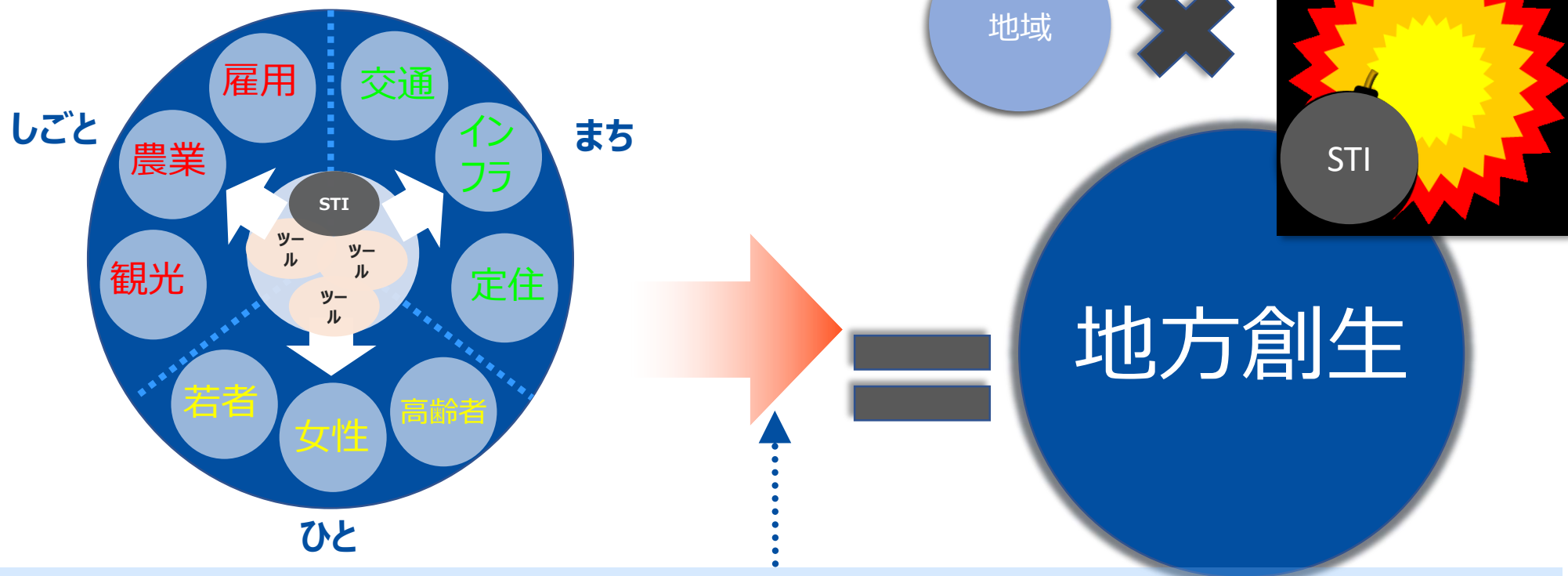


- ◆ 「地域科学技術イノベーション」は、地方に「しごと」をつくり、地方への新しい「ひと」の流れをつくり、「まち」をつくることを目指した「地方創生」の推進手段として、**必要不可欠な要素**と言えるか。
- ◆ それとも、「地方創生」の単なる手段の一つとして、大きな文脈の中に包含されてしまうだけなのか。

◆「地域科学技術イノベーション」は、「地方創生」の推進手段として、必要不可欠な要素と言えるか？

- 「地域科学技術イノベーション」は、住民ニーズや地場産業に根付いて展開されるもの（＝**ニーズプル**）と、大学などの研究機関の持つサイエンスを出発点に展開されるもの（＝**シーズプッシュ**）の両方があると考えられる。
- 出発点はいずれであっても、**科学技術イノベーション活動の結果**、地域の主体に創業、安心・安全な暮らしの実現など経済的・社会的価値をもたらし、**「地方創生」を推進し得ることは間違いない。**
- しかし昨今、技術の発展と社会の変化が複雑に影響しあい、社会の在り方そのものが非連続的と言えるほど劇的に変わり将来予測が困難となっており、「地方創生」の推進に当たっても、**目指すべき社会像を多様なステークホルダー間の対話により定め**、その実現に向けて**既存の考え方や枠組を打ち破って、新結合による新たな価値を創造する**ことが要求されているのではないか。
- 従って、変化の局面下で多様な社会課題を抱えている地域（主体）は、**「科学技術イノベーション」を必要不可欠な起爆剤（トリガー）として扱い、イノベーションの連鎖を通じはじめて「地方創生」を推進し得る時代を迎えているのではないか？**

地方創生



- これまでの地方創生と科学技術イノベーションの関係の捉え方
「地方創生 = まち（地域 = 地方都市、大都市圏等といったエリア） + ひと + 仕事」
：科学技術イノベーション（STI）は、地方創生の構成要素に作用するツールの一つ
- 今後の地方創生と科学技術イノベーションの関係の捉え方
「地域（=自治体、大学・研究機関、企業等といった主体） × STI = 地方創生」
： STIは、地域が地方創生を実現するために必要不可欠な起爆剤（トリガー）
- 従って、「地方創生に大きく寄与する科学技術イノベーション」の観点において、関係府省は各々の政策目的に基づき、効果的な連携の下、多様なアプローチを通じて政府全体として多面的に「地方創生」を推進することが重要であり、その結果として、施策間のシナジー効果も生み出し、「地方創生」の推進という政府全体としての至上命題に立ち向かうことが出来るのではないか。